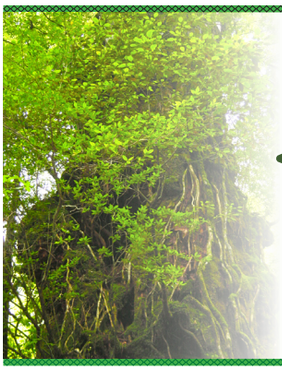


April 9, 2014
第 17 号

NEWSLETTER

大阪女学院大学　大阪女学院短期大学

教員養成センター

●巻頭エッセイ　グローバル化時代のパラドックス……1
● 2013 年度教員免許状更新講習３ 報告 ……2
●『OJU 教職活動報告・研究 Vol. 4』の発行 ……3
●第2回「英語の教え方教室合宿」in 長浜（第 29 回勉強会）案内…3
●授業の玉手箱「Haiku in English can be an interesting teaching material.」……4
●書籍紹介 『CAN-DO リスト作成・活用　英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』. 4
● 2014 年度教員免許状更新講習１・２ 案内 ……4
●編集後記……4

巻頭エッセイ　グローバル化時代のパラドックス

中井　弘一

グローバル化の急速な進展は、広範な領域で大きな影響を与えつつある。英語教育においては、文科省の計画によると、歌や遊びを通じて英語に親しむ「外国語活動」を現行の小学5、6年生から小学3、4年生に前倒し、小学5、6年生は英語を正式教科として週3コマ程度、今の中学校のように教科書や専科教員らによる指導をする。さらに中学校は、今の高校のように原則として英語で授業を行い、高校は討論や発表などの実践力を重視する考えである。国際的に活躍する「グローバル人材」の育成をめざし、実践的な語学力の習得や、討論を重視した授業に力を入れたり、海外の学生との交流に取り組んだりする高校も増えている。

さながら、欧米から知識・情報を仕入れ、欧米と同じようになろうした明治時代の初期にタイムスリップした感がある。インターネットの急激な発展で世界がフラットな状況になったようである。Line や Facebook などで繋がる生徒や学生の絆はフラットであるように思えるが、同時にオンラインという同じフレームに中に閉じ込められているようにも思う。同じ制服や同じブランドの服を着て、そこ（だけ）に通用する言語やカルチャーに染まっていく。フラットな社会は反面、個性や個人の価値観を薄れさせる。価値観を share することがかえって個人の価値観の喪失につながるというパラドックスが存在する。

グローバル化によって、自動車や家電メーカーなどの日本企業が利益を求め海外へと進出する。するとその結果として、日本の社会の雇用の空洞化が促進される。国内経済の停滞、雇用不安を招く結果が社会不安となる。フィリップ・コトラーは、「グローバル化は普遍的なグローバル文化を生み出す一方、同時にそれに対抗する力である伝統的文化を強化する」と述べている。遅れをとってはなるまいと、世界経済へのグローバルな対応に必死になる日本が、逆にナショナリズムを強め東アジアに緊張感をもたらしていると思われることも、グローバル化が生み出しているパラドックスかもしれない。

こうした中で、日本企業の中にはグローバル化という均質化に埋没するのでなく、ローカルなアナログを堅持している企業もある。朝日新聞（記者有論）に「ポッキーには、まねされないノウハウが詰まっている。『アナログ』は強い」という記事があった。スティックを作るにしても、その日の気温や湿度を確認する。まっすぐ、ムラなく焼き上げるために、生地を焼く温度を、気温や湿度に応じて人が経験的に微調整する。そこにマネのできない味と食感が生まれるとのことである。

ワープロソフト、プレゼンソフトなどを活用するコンピュータ、電子黒板、iPad のような便利な電子デジタル機器を活用できる今の教育環境においては、知識の共有を等質で瞬時に行える。たとえば、全員が同じ教材や解答をいとも容易く得ることができる。デジタルの持つ均質性は誰が指導しても一定の内容を保つことができる利点がある。

授業では、教員が便利な PC を使った見栄えのよい丁寧なプリントを配付する。配付されるプリントは往々にしてデジタル的な穴埋めのワークシートが多い。生徒がその穴埋めを行うと、完成された学習ノートができあがり、素晴らしい成果のように思える。できあがりの品質は策定された結果の解答を求めるものなので、それなりのできあがりとなる。しかしながらそれは、生徒自身が考え・学習したものでなく、教員が敷いたレールを指示どおりに進まされているだけで、本人が自分なりに考え経験すべきプロセスをカットしており、過剰品質となっている。実際は、生徒の個々の学びのペースやステップに対応しきれていないのに、学びのプロセスがフラットに固定化されて、見かけ上均質な成果物を産みだしているように思える。

今流行りの電子黒板も素晴らしい機能を持っている。教材を効率的に提示することには目を見張る。だからと言って、昔ながらに黒板にカリカリ音をさせ生徒とのやりとりを板書して行う授業に効果がないと言い切れるだろうか。板書に流れる時間、個性的な文字、行間。そこに生徒は自分で考える時間という「間」を持ち、さらには先生の個性にも触れ心のつながりを形成していくのではないだいだろうか。誰が教えても同じ提示となるデジタル教育に先生の顔は見えにくい。アナログとデジタル、教育にはその両方が本来必要である。

グローバル化という名の下に、英語教育においても急激な改革が進むが、個々に応じたローカルな考えを取り入れないと、肥大化し過ぎて爆発するのではないだろうか。ビットコインのような仮想通貨が瞬時に消え去る現実がグローバル化を追い求めることへの社会不安を警鐘しているように思える。

参考文献

フィリップ・コトラー（著）、恩藏 直人・藤井清美（訳）(2010)『コトラーのマーケティング 3.0 ソーシャル・メディア時代の新法則』朝日新聞出版
近藤郷平（記者有論）「ポッキー「細い体」に込めたアナログ」朝日新聞朝刊　平成 26 年 2 月 26 日（水）

特　集

教員免許状更新講習３　2013 年度

平成 26 年３月８日（土）　　報告：中井　弘一

言語文化としての英語表現　－英語の発想・日本語の発想と生き生きとした英語表現活動－

- 「生の英語表現」－言語と文化の関係性や言葉の力の理解－
- 「生き生きとした英語表現活動」－日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい－

■ 講習３

●「生の英語表現」

－言語と文化の関係性や言葉の力の理解－　　東條 加寿子

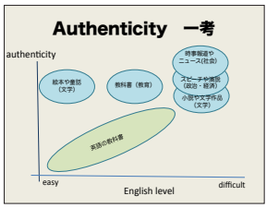
「生の英語表現」には、どのような英語表現が使われ、どのような情報やメッセージを伝えようとするのか。その背景にある文化や発想の違いを考え、言語と文化の関係性や言葉の力を理解するとともに、「生の英語表現」を学ぶ喜びを引き出すヒントを考える。

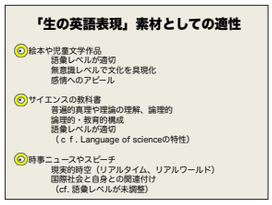
●言語と文化の関係性

・Sapir-Whorf Hypothesis
・「ある言語を母国語とする話者は、必ずその言語を通して物事を捉える。言語と思想は密接に関係しており、言語のない思想など存在しない。言語は人間の思想を支配している。」
・色の概念　・数の概念　・イヌイットの雪の概念

●英語の発想を学ぶことの意味

異なった言語（文化）を学ぶことは豊かな経験
・英語で思考し、英語で生活することを目標としているわけではない（異なっているからこそ価値を生む）
・英語を「話す」ことだけを目標にするのはいかにも残念
Logical thinking という普遍的な思考パターンがあるわけではない。まして、その思考パターンが優位であるわけではない。
・Logical thinking は相対的なもの。
・ディベートができる日本人の育成をめざしているわけではない。





●「生き生きとした英語表現活動」

－日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい－　　中井 弘一

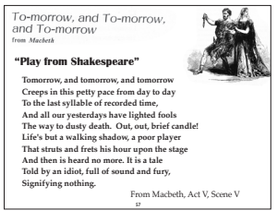
「発音・音読による英語表現」、「日英感覚の違いから起こる英語表現」、「英語創作表現」など英語教室での実際的な活動を取り上げ、ワークショップ形式を通して「英語表現」という言語文化を体感しながら、明日の授業を展開するための基盤構想力の育成する。

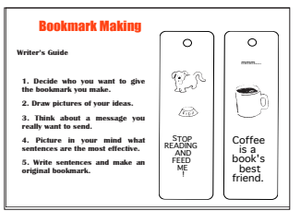
●表現力の育成のポイント

・思いを込め、膨らませる
・表現をする中で何かを発見させる
・体験的な活動と結びつけさせる
・表現における個性の発見
・表現に対し共感する、また交流する他の人の存在の重要性
・表現技能の練習

●英語科がめざす文化理解とは何か。

英語科は、直接、対象言語を学ぶことを通して、言語そのものが文化である言語文化を扱い、英語社会において物心両面にわたる活動の様式と内容の総体となっている、ものの見方、価値観を生徒に習得させることをミッションとしている。





■ 受講者コメント

参加者（紙面の都合により全 16 名のうち 13 名）のコメント

○日頃、じっくりと授業について考える時間もなく、気がつくと１年が終わってしまっているという毎日ですが、今年度は夏に２日間、そして本日と本当に勉強させていただきました．教員生活も 30 年を越え、学校の英語教育も劇的に変化してきたことを実感しています。その流れの中で、免許状更新講習とは言え、時代に沿った素晴らしい講義を行ってくださる先生方には本当に感謝しています。中井先生は、いつも私たちにこれでもか！というほどの教材を用意してくださり頭が下がる思いです。

○英語学習の本来の目的である異なる文化や思想、価値観を知り、学習者の視野を広げ、その後の人生を豊かなものにしていくということのための具体的な手法を様々な形でご提示いただくことができ大変参考になった。今後の自らの授業に取り入れていきたい学習活動のヒントを多数ご教授いただいた。本日はどうもありがとうございました。

○今回で、３度目の受講となります。今回のテーマは昨年の３月、８月に比べ、リラックスして聞くことができました。講義を聴きながら、４月からの授業で「これも使える、あれも使える･･･」と具体的にイメージすることができました。東條先生の講義では、日英の文化的背景の違いを知ることの重要性に改めて気付き、中井先生の講義では、生徒達が楽しく英語を学べるような例を沢山示していただきました。以前より貴学の教育方針に感銘を受けており、今回の免許状更新講習で実際に私自身が貴学で学ぶことができたことをうれしく思っております。来て本当によかったです。ありがとうございました。

○ 東條先生の講義では、ICT の説明とサピア・ウオーフの仮設、その他、海外の英語文献の分析が主な内容であった。普段使う機会のない iPad についての理解が深められたとともに、すぐに活かせる内容もあり満足しています。中井先生の講義は、日英感覚の違いを生徒に気付かせて英語で表現する機会を多く生徒に与えるという、今後期待される授業像の原点であったように思います。大変役に立ちました。ありがとうございました。

○ 一部では、絵本を作った教材がとても気に入りました。絵から入ることで英語を少しでも面白く思わせることができるかも知れないと思いました。二部では、様々な教材を紹介していただき、明日への授業でどう役立てようかといろいろ考えさせられました。とても興味深い内容で面白かったです。どうもありがとうございました。

○子どもたちが生き生きと学ぶために私たち教師がもっともっとできることに光が当てられたと思います。毎回、中井先生の話には熱意と心がこもっているので、中井先生のように生徒の意欲を刺激してもっともっと学びたい、コミュニケーションをとりたいと思えるようにしたいのですが、部活動や学年の教科外の仕事（教務）また担任等の仕事に追われてなかなかできませんし、心の余裕が持てません。そうしたところもどうしたら良いのか教えていただけたらと思います。

○普段マンネリ化しやすい自分の授業に、興味を持ちやすいトピックを選んで講習をしていただき、とても楽しく受けられました。ありがとうございます。自分自身でも様々な分野に興味を持ち、教材を発掘していくこと、創造性をもって授業にあたることこが大事だなと思いました。授業は改めて、その教師の人間性が問われるライブ感覚が必要だと思います。夏にも是非参加してみたいと思いました。

○非常に盛りだくさんで、先生方の私たちへの本日の講習への思いを実感することができました。本当にありがとうございました。高校の新学習指導要領に基づくカリキュラムがスタートし、「英語表現」「コミュニケーション英語」の授業を私もこれからしていくことになりますが、様々なヒントを教えていただくことができました。

○今回、受講させていただいて、改めて英語の世界の深さを感じることができました。先生方の講習はとても興味深く、本当に楽しむことができました。今回の学びをこれからの授業に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。

○たくさんの資料のお土産をいただいて帰ることができました。配布物一つ一つが丁寧に作られている気がして、「捨てずに残しておこう」という思いになりました。受講内容は、英語の授業で活かせることがほとんどですが、HR などのクラスでも活かせる内容もありました。実際、中 3 の卒業を控えたこの時期、今までの想い出を振り返る映像づくりのヒント、最後の学活で何をするのかを考える示唆をいただきました。ぜひとも曲を流します。英語そのものを学ぶことを目的とした授業が多い中学生への英語指導ですが、英語を通して世界をそして英語を通して言葉、コミュニケーションを学べる授業をしていこうと思います。ありがとうございました。

○最初から最後まで、和やかな楽しい雰囲気の中で講義を受けることができました。内容は盛りだくさんでしたが、どれもこれからの私の英語の授業に役立つものばかりです。生徒の興味や関心をどう引き出したらよいのか、悩んでいた私ですが、今日学んだことを実践することで子どもたちを生き生きとさせる授業ができると確信しました。今日は本当にありがとうございました。

○まずあっという間の 6 時間でした。時事素材の講習では、久々に真剣に英語を聞きました。普段の指導の中では、大まかな内容を伝え、理解させることで精一杯になってしまっていました。今回の講習を受け、改めて素材の中にある異文化の考え方を伝えることの大切さを考えることができました。ありがとうございました。

○自分の中で抱いている概念を再確認できることがいくつかあった。ありがとうございます。

大阪女学院大学 教職課程機関誌　発行

『OJU 教職活動報告・研究 Vol. 4』

本学の教職課程も 4 年経ち処女航海を終え、港で更なる航海への準備をしている。航海には不安に思うことがいっぱいあった。教職課程を設置したのは、未知との新しい出会いをするためである。伸ばした望遠鏡を覗いてその奥に見た未来を夢みたからである。それは、本学の卒業生が学校現場や教育分野の職場などで生き生きと働く姿である。

航海は順風ばかりじゃない、嵐もあれば凪もある。思うように進めないこともある。しかしながら、風は世界を巡っている。その風をうけて前進していこうと思う。

私たちの航海日誌である 2013 年度機関誌 Vol.4 を 3 月 7 日に発行した。実践記録・実践報告を投稿していただいた坂本美佳先生、松川慈先生、山口朋久先生、特別寄稿していただいた浦川真緒さん、長澤和弥教頭先生にお礼を申しあげたい。次の航海へと向かう本学教職課程は、明日の教育を考える教育機関としての役割を担うようこれからも着実な歩みを示してゆく所存である。

目　次

巻頭言　グローバル化時代とこれからの英語科教員の養成

Ⅰ　2013 年度活動報告
1．平成 25 年度夏季教員免許状更新講習1
「思考力・判断力・表現力の育成をめざす指導」
2．平成 25 年度夏季教員免許状更新講習2
「発音指導とリスニング指導のワークショップ」
3．　授業デザインスキルアップ演習
「英語表現活動を考える」
4．2013 年度勉強会「英語の教え方教室」報告
第 22 回「生徒の意欲を引き出すメンタルトレーニング」
第 23 回「活用型学力を育てる授業をめざして―実践活動紹介―」
第 24 回「創造力を育てる授業をめざして―実践活動紹介―」
第 25 回「大阪女学院大学教職フィールドワーク課題研究発表」
第 26 回「英語の授業は英語でを考える」
第 27 回「新課程英語表現Ⅰの授業をどう考えるか―現状と課題―」
第 28 回「私の授業への挑戦」、「授業のつかみ―集中力を増すウオーミングアップ・アクティビティ」
「英語の教え方教室」合宿 in 近江八幡
Ⅱ　教員養成センター・ホームページ報告
1．月別 HP アクセス件数 (2013 年1月～ 2013 年 12 月)
2．英語教育　巻頭リレー・エッセイ (2013 年 2 月～ 2014 年 1 月)
3．書籍紹介（2013 年 2 月～ 2014 年 1 月）
Ⅲ　OJU 教職ネットの 1 年
1．ML 配信記録配信件数推移（～ 2014 年 1 月）
2．OJU 教職ネット登録について
Ⅳ　教職課程活動報告
1．サークル活動報告
2．学生授業課題レポート：
「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」春・秋学期
・「トータルフィジカルリスポンス・ジャズチャンツは役に立つ指導法か」　安心院　幸恵
・「授業で行うアクティビティ・基本的な指導技術について」　田井　寛子
・「Humanistic Approach（人間中心の英語教育）は役に立つ指導法か？ ―その指導法の考え方と指導の実際から―」　山本　妙
・「高等学校授業デザインに必要なこと」　中村　沙貴
・「ニーズに応じた補助教材の開発と活用」　山本　妙
3．教職フィールドワーク（韓国）報告・レポート　戸田　浩美
4．教職フィールドワーク（英国）報告・レポート
・"Class observation at Manor School"　桑田　沙由理
・"Observing Classes at Manor School"　田井　寛子
5．教育実習報告・レポート
・「英語教育の実態と課題」　工藤　由美恵
・「教育実習を通じて考えた課題とその解決に向けたビジョン」　中尾　実可
・「コミュニケーション能力を養うための課題」　谷口 亜里沙
6．教員採用試験合格体験記
・和歌山市中学校英語科教員　森下 好香
・堺市中学校英語科教員　西田　理恵
Ⅴ　実践記録・実践報告・自由論考
■実践記録
1．「私の授業への挑戦―スローラーナーにいかに寄り添うか―」
滋賀県立伊香高等学校教諭　坂本　美佳
2．「教室をコミュニケーションの場とするために」
―新学習指導要領に基づいた生徒が生き生きと活動する授業づくりへの取組―
奈良県立高取国際高等学校教諭　松川　慈
■実践報告
1．「生徒の発話量を考えた教材づくり」
滋賀県湖南市立石部中学校教諭　山口　朋久
■自由論考
1．高等学校「英語表現」の授業に求めたい活動　中井 弘一
Ⅵ　特別寄稿
1．高校生として考える中学校高等学校での英語教育
滋賀県立石山高等学校 3 年生　浦川真緒
2．学校設定科目「国際情報Ⅰ・Ⅱ」―スカイプを用いて海外の学校との交流を行う―
兵庫県立川西明峰高等学校 教頭　長澤 和弥
資料　教員養成センター Newsletter　2013
第 13 号　臨時増刊号　第 14 号　第 15 号
第 16 号
投稿規定
編集後記

http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/bulletin に掲載

第2回「英語の教え方教室合宿」in 長浜　案内

2014(平成 26）年5月 10 日 (土) 13:00 ～ 11 日 (日) 13:00

ホテル Yes 長浜駅前館 (2 号館8F 会議室)

昨年に引き続き大阪女学院大学「英語の教え方教室」の有志のメンバーが、第 2 回「英語の教え方教室合宿（兼第 29 回勉強会)」を企画しました。2日間の合宿を通し、今後の英語教育でのスピーチ・プレゼン・英語ディベートの指導法を探りながら、中井弘一先生によるワークショップ、参加者同士による討論や話題提供を行い、英語教育に携わる仲間として親睦を図ることを目的としています。翌日は NHK大河ドラマ黒田官兵衛にゆかりのある長浜市内の散策等を企画しております。

有志幹事 :（チーム滋賀）戸田 行彦、坂本 美佳、中西 勝弘

詳細案内は http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/course

【1日目】
13:00　開会
13:10　基調講演・ワークショップ
「ディベート発想の思考力の育成
―論理的に考えるための活動例紹介―」
大阪女学院大学　中井　弘一教授
15:00　グループ討論①
（賛成・反対に分かれディベート形式で討論）
テーマ例
「日本語訳のプリント配布は必要である」
16:20　記念写真撮影
個人教材・資料交換会
16:40　グループ討論②
（話題提供・ディスカッション形式で討論）
「みんなで知恵を出し合おう！授業の悩み」
17:45　勉強会閉会
18:00　夕食 (長浜市内)、歓談等

【2日目】
7:30　朝食
9:00　長浜市内散策
13:00　長浜駅周辺で昼食後、解散

授業の玉手箱

Haiku in Englsih can be an interesting teaching material.

NAKAI, Hirokazu

Haiku is the most popular poetic form for Japanese people. Why do we like haiku? A haiku is about daily life. A haiku describes particular things, often two contrasting things. A haiku records a moment on enlightenment---a sudden discovery about life. A haiku is usually about a season of the year, often a haiku contains a kigo, a "season" word. It is very simple but very profound in meaning. To write a haiku one must be awake to the world. For when the mind is present and not asleep or crowded by thoughts, one can see clearly what is really there. Sometimes this discovery seems like a surprise, although it was there all the time. This is, I guess, why we like Haiku.

A haiku in Japanese has just 17 syllables: five syllables in lines 1 and 3, seven syllables in line 2. “ 湖 ” mi-zu-u-mi has 4 syllables, but "lake" has 1 syllable. So, it is a little torublesome to follow exactly Japane Haiku style. Why don't we let our students write a 3-short-line poem, which describes daily situations in a way that gives the reader a brand new experience of a well-known situation. The best haiku are usually written from one's real experience in the moment, in the here and now.

In addition, it arouses our students' intellectual curiosity to research the image of kigo, how we feel about a kigo. (ex. see the right figure 1.)

A warm breeze flows
though my open window
pushing my papers aside
L S Winder USA

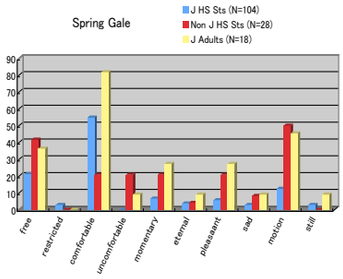


Figure 1: How we feel about spring gale
中井（1990）『地球サイズの歳時記論考』より

書籍紹介

『CAN-DO リスト作成・活用　英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』
投野由紀夫（編）、大修館書店（2013）、3,200 円、313 ページ

CEFR-J は、欧州評議会で開発された CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) の日本版である。大学の研究者らによって構築された CEFR-J は、日本の英語教育で利用することを目的にした英語能力の達成度指標であり、10 年の歳月を費やした英語コミュニケーション能力到達基準策定のための諸研究と大規模な検証に基づいている。本書は、その CEFR-J のガイドブックである。

Part1 ではまず CAN-DO リストの原典である CERF について、その歴史的背景や理念から、利用指針、準拠教材や言語テストまで説明している。Part 2では、CEFR-J について説明し、続く Part 3では、CEFR の活用方法を各レベルの CAN-DO の特徴とその指導法、さらに実際のスキルとの関連において具体的に説明している。

日本の英語教育において CEFR が市民権を得た背景には、言語に関する知識の教育ではなく、実際の言語使用場面での活動を通したコミュニケーション能力の育成を目指す CEFR と、コミュニケーション力重視へ転換を図ろうとしている日本の英語教育の理念が同期したことがある。しかし一方で、複言語主義を標榜する欧州と日本の言語使用環境には大きな隔たりがあることも否めない事実で、CEFR をそのまま日本の英語教育に適用することには無理があった。実際、CEFR-J では A1 レベルの前に、日本固有の PreA1 レベルを提唱している。

本書の最大の特徴は、CAN-DO リストに落とし込まれたスキル別のデスクリプタ (descriptor) と呼ばれる能力記述である。これらのデスクリプタに習熟することによって、現場の教員は観点別評価の基準と規準を研ぎ澄ますことができ、これに縦軸の PreA1, A1, A2, B1, B2, C1, C2 の習熟レベルを織り込むことによって、小学校から大学までの一貫した英語カリキュラムのなかで足元を踏み固めることができる。さらに、具体的指導法が丁寧に解説されていることが、日本のコンテクストのなかで CEFR にリアリティを持たせることに一役買っている。手元において重宝する 1 冊である。

（東條　加寿子）

大阪女学院大学「教員免許状更新講習 1・2」平成 26 年度講習

http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate

各講習：中学校英語科教員・高等学校英語科教員　計 30 名

■講習1　平成 26 年8月 5 日（火）9：10 ～ 16：40

「言語文化としての英語表現」

・生の英語表現　―言語と文化の関係性や言葉の力の理解―
東條 加寿子　大阪女学院大学 教授

・生き生きとした英語表現活動　―日英感覚の違いから起こる英語表現の味わい―
中井 弘一　大阪女学院大学 教授

【生の英語表現】国際社会の様々な場面での「生の英語表現」を取り上げ、その英語表現が背景にどのような文化や発想の違いがあるのかを考え、その関係性や言葉の力を理解するとともに、「生の英語表現」を学ぶ喜びを引き出すヒントにしたい。**【生き生きとした英語表現活動】**「発音・音読による英語表現」、「日英感覚の違いの英語表現の味わい」、「英語で表現する創作表現活動」など実際的な活動を取り上げ、授業の基盤構想力の育成に努める。

■講習2　平成 26 年8月6日（水）9：10 ～ 16：40

「発音・音読指導、リーディング指導、文法表現指導」

・発音・音読指導
夫 明美　大阪女学院短期大学 准教授

・リスニングとリーディング指導の接点を考える
東條 加寿子　大阪女学院大学 教授

・わかる・使えるようになる文法指導の工夫
中井 弘一　大阪女学院大学 教授

【発音・音読指導】授業テキストなどを用いた体験型ワークショップを通して、発音向上のための練習を行い音読指導のヒントについて考える。**【リスニングとリーディング指導の接点を考える】**リスニング（音声情報）とリーディング（文字情報）を関連付けたスラッシュリーディングの指導法について考える。**【文法表現指導】**英語を使ったり表現し合ったりするための「わかる」「使えるようになる」文法指導のステップを中学校や高等学校での指導例をもとに考える。

■ 受講申し込み受付

平成 26 年 4 月 17 日（月）より 7 月 19 日（土）までに大阪女学院大学　教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。（申込方法）教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp) 宛に、1) お名前 (漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 希望講習を明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○ 受講料　5,000 円（所定の口座へ振り込み）

編集後記

A ship in a harbor is safe, but that’s not what ships are built for.
（港の船は安全だが、船はそんなために造られたのではない。）

航海術は羅針盤の改良によって著しく発達した。本学の教職課程も設立理念という羅針盤（方位磁石）を持って更なる航海を続ける。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher Development Support Center
540-0004　大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号
Tel: 06-6761- 9371　Fax: 06-6761-9373
Homepage: http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp